

# 【（公財）城北労働・福祉センター】の活用戦略を踏まえた課題と今後の方向性

## 活用戦略で定めた「団体の将来像」

### 変化する山谷地域の環境に適した施策を推進していく団体

#### 重要課題 ①

経済・雇用情勢や日雇い労働市場の縮小、センター利用者の高齢化など山谷地域を取り巻く状況が変化している中でも、利用者に対するきめ細やかな支援を実施するため、センターと関係機関が連携強化をどのように図っていくか

#### 検討の状況や今後の方向性

- 山谷地域では、医療福祉分野において様々な団体が独自に支援活動を展開している。
- 利用者に対して、よりきめ細やかな支援をしていくためには、山谷地域で活動する各種のNPO法人等と連携し、これらの団体が持つ経験やノウハウを活用することが効果的である。
- これまで、一部事業の業務委託や、NPO法人等が主催する会議に参加し事例検討を行うなど、関係を強化してきた。
- 今後は、利用者への支援に係る連携の可能性について、意見交換を行うなど具体的に協議を進めていく。

## 【（公財）城北労働・福祉センター】の課題と今後の方向性

### 重要課題 ②

### 山谷地域を取り巻く環境の変化を踏まえた利用者支援

### 検討の状況や今後の方向性

- オリンピック・パラリンピックを背景とした堅調な景気動向等の外的要因もあり、昨年度は職業紹介における求人数・紹介数とも増加した。
- 一方で中長期的には労働者の高齢化、建設現場の機械化などにより、日雇労働市場は縮小しており、センターにおける職業紹介数は15年前と比較して、1/3に減少している。今後は、建設・土木以外の造園・清掃等比較的軽易な業種の求人開拓を重点に、利用者の年齢や体力に見合った職業紹介を行っていく。
- また、これまで就労自立や生活保護への移行を図ってきたが、路上生活に執着する等、生活安定につなげることが困難な利用者もあり、支援の困難度が増している。
- 今後さらに、居住場所へのアウトリーチ等により、個々の利用者に寄り添い、体調や心理の変化を的確に捉えて生活の安定に向けた支援を行っていく。